



1 目玉焼きに何をにつけますか。

このユニットは、多様なもの（文化、ことば、行事など）について、参加者で楽しく考えることがねらいです。

1では、多様なものの第一歩として、目玉焼きに何をにつけるかを話します。例として挙げた調味料以外にもいろいろな調味料があると思います。「目玉焼きは食べません」という参加者がいてももちろんいいです。あたたかい雰囲気、活動を始められるといいと思います。

2 道で見るマンホールには、いろいろなデザインがあります。①～④のデザインは、どの地域にあるマンホールだと思いますか。a～dから選びましょう。

2に掲載している写真は「ご当地マンホール」と呼ばれるものです。マンホールにかかれたイラストから、地域の特徴や名物、観光名所を考える活動です。参加者によっては、少しむずかしいかもしれません。どんなイラストがかかっているか、参加者の故郷には同様の名物や観光名所があるかなど、1つのマンホールから話題を広げられるといいと思います。全員で一斉に考えてもいいですし、小グループに分けて考えても構いません。

3 いろいろな「ありがとう」を知りましょう。

3では、多様な「ありがとう」を取り上げます。「せかいの言語」だけではなく、日本の中の少数言語についても知る活動にしたいです。ワークシートに載せきれなかったことばもあります。

ここでは、以下のような活動デザインも可能です。

- ①ワークシートを示す前に、短冊ぐらいの大きさの紙を準備し、参加者が知っている「ありがとう」を書けるだけ書く。（それぞれの言語表記で書いたほうがいいです。）
- ②参加者みんなが見られるように、ホワイトボード等に紙を貼り（あるいは、書いた人が胸の前で持ち）、多様な「ありがとう」を発表し合う。

日本語が「できる」「できない」に関係なく、参加者が知っていることを共有し合える活動にしたいです。サポートサイトには、いろいろな国や地域の「ありがとう」の音声も載せています。活動時間に合わせて、音声を聞いて発声してみると、活動の幅が広がるかもしれません。

琉球諸語に関しては、以下のサイトをご参照ください。



比嘉光龍「『琉球語』だと誤解を招きます！『琉球諸語』です #31」

<https://note.com/fijabyron/n/n43af1b2c90b6>



1 話しましょう。

国レベル、地域レベルの行事だけではなく、「わたしが恒例で(毎年)行うこと」などについて話し合えるといいと思います。全員で話してもいいですし、小グループに分かれて話してもいいです。グループに分かれた場合も、最後は全体共有する時間をもちましょ。全体共有する際、①②で話した行事や料理をミニホワイトボードや A4 サイズの紙などに書き、見せながら発表すると、発表しやすいと思います。

2 買い物をしましょう。

チラシは巻末とサポートサイトに載せています。必要に応じて印刷してください。家や教室の近くにあるスーパーのチラシを使ってもいいです。

このワークは、教室環境に合わせて、教室参加者全員でワークをするのか、グループに分かれるのか、ご判断ください。グループワークの場合は、1グループ3、4名がいいと思います。また、「みんなでキャンプに行きます。使えるお金は4,000円です。」など設定を変えてのワークも可能です。全員が食べられるメニューを考えられるといいと思います。



ふり返りの時間は大切です。感じたこと、考えたことを人に話すことで、自分の考えを意識化できます。また、ほかの参加者のふり返りを聴くことで、自分自身の学びが深くなることも多いです。

※ふり返りの進め方などは、ユニット1に「まつお一口メモ」があります。あわせてご覧ください。